

平成25年度 第2回 地域のしくみづくり検討・検証懇談会会議録

○ 日 時 平成25年11月5日(火) 13時00分～15時20分

○ 場 所 松戸市役所 議会棟3階 特別委員会室

○ 出 席 者 座長 関谷 昇 長江 曜子
大塚 清一 原田 光治
文入 加代子 恩田 忠治
荒 久美子 星 典子
島尻 武雄 吉岡 俊一
(欠席：平川 茂光、岩橋 秀高、榎本 孝芳)

○ 傍 聴 者 2名

○ 事 務 局 市民部長 小沢 邦昭 市民部 審議監 伊藤 智清
市民部 参事監 戸室 文男 市民自治課長 平林 大介
市民自治課専門監 向後 文大 市民自治課 富川 玄規
市民自治課 天野 武彦 市民自治課 染谷 寛之

- (配布資料) ●次 第
●地域のしくみづくり検討・検証懇談会名簿
●地域の仕組みづくり検討報告書(平成25年3月)

○ 会議経過及び概要

1 開 会

(向後専門監)

平成25年度第2回「地域のしくみづくり検討・検証懇談会」を始めさせていただきます。お手元に配付致しました、懇談会次第によりまして進めて参りたいと存じます。はじめに、今回の懇談会から参加されました吉岡氏からご挨拶をお願い致します。

(吉岡氏)

こんにちは。前回は参加できず申し訳ありませんでした。松戸市特別養護老人ホーム連絡協議会からの代表で来ています吉岡俊一です。普段は特別養護老人ホームコスモスの施設長をしております。高齢者のことが専門なのですが、それ以外のことは今回が初めての参加なのでいろいろと勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(向後専門監)

ありがとうございました。本日の配布資料の確認ですが、次第、地域のしくみづくり検討・検証懇談会名簿、地域の仕組みづくり検討報告書(平成25年3月)になります。また、本日2名の方が傍聴を希望していますのでよろしくお願いいたします。この会議は議事録作成のため録音

していることをご了承いただきたいと思います。

ではこれより懇談に移りますが、今回も前回同様に関谷先生に座長をお願いしたいと思います。

(座長)

それでは第2回地域のしくみづくり検討・検証懇談会を開催させていただきます。本日座長を仰せつかった関谷と申します。よろしくお願い致します。

この懇談会は前回趣旨を確認したところでございます。平成25年3月に地域の仕組みづくり検討報告書が市に対して提出されまして、この内容を巡り松戸市ではどのような考えや方向性を持ち具体的にはどのように浸透、共有していくのかを様々な立場からいろいろな考えを頂戴するということが本懇談の趣旨です。

前回も時間が足りなくなるほど貴重なご意見をいただきましたが、今回から参加されている吉岡氏のためにもう一度地域のしくみづくりのポイントを説明したいと思います。

少子高齢社会や現在の経済状況を背景に地域のあり方をどのように考えていけばよいのか、課題や問題が出てきている状況です。いろいろなかたちで地域を支えてきた方々がいるのは言うまでもありません。しかし、現在は社会状況の転換期で、今までとは異なる問題が生じ、地域を支えてきた人々も高齢になり、いろいろな人が地域を支えていかなければならない状況になっています。そこで今後この転換期をどう乗り切っていくのか、また将来的にどのような地域づくりをしていくのか話し合っていきたいと思いますというのが基本的な状況だと思います。

その中で検討報告書にあるポイントは、従来地域を支えてきた人たちの意見を尊重しながら、縦の繋がりだけではなく横の繋がりも可能にする環境を付け加えていくことや、若い人にもっと地域に参加してもらえるように裾野を広げていくことが求められていると思います。これを念頭におきながら一定の地区を基本としながら、縦と横の両方で地域を充実させようというのがこの報告書の趣旨です。

具体的な方策はまだまだ決まっていますが、全地区が同じ対応をするのではなく、それぞれの地区の特色や状況を加味しながら対応しようということです。従来のやり方で十分ではないか、新しいやり方が浸透するののかとの懸念、若い人たちは仕事が忙しくなかなか地域に参加してもらえないなどの問題はあります。しかし、同時に新しい方法で地域に参加したいと考え始めている若い人たちがいます。これらの人たちをどのように活かしていけるのかが今後の課題となります。

またそれぞれの地域で協議会を作っていこうとなっていますが、多様な方法があると思います。この協議会を厳格な組織として捉えずぎずに柔軟に対応して、また導入する際も押し付けるのではなく一つのモデルとしてどのように地域に浸透させていくのかそのプロセスも意見として頂戴したいと思っています。

協働という言葉が示すように地域と行政の関係も多様化しております。行政の財政が厳しく行政だけでは手が回らないことが増えてきているなか、市民や市民活動団体と行政が連携を取り合っ協力していくその手法も多様化してきています。松戸市ではどのように活用していけるのかということをご意見をいただきながら、考えていこうと思っています。

2 フリーディスカッション

(恩田氏)

住宅関係と商業地域の繋がりが大事であると思います。私どもの商店街では大きいテナントが撤退しています。地元の年配の方は自分の足での買い物を楽しみにしていますので身近に商店が必要だと思います。

また地域でのイベントなどを行う際、人材発掘が大事だと思います。イベントに参加してくれた人の中から町会と関わりを持ち、ひいては役員をお願いするというケースがあります。若い人はこうしたイベントに出る機会がなかなかないのでしっかりとした環境を作ることが大事だと思います。

(座長)

地域のイベントにどのようにして多くの人に参加してもらうかという課題ですが、地域という枠組みだけでなく横の繋がりを持ち、入り口を広くして従来と違う方にももっと参加してもらう。そのなかで町会・自治会の実情を知ってもらわなければ、地域の今後の動きを考えられません。ましてや役員や地域の担い手は増えないでしょう。その場を作っていくのにこの地域の仕組みづくりを活用できるのではないかと思います。

商店街・買い物の問題は、現在は宅配サービスなどの買い物支援は増えていますが、そうではなく自分で行きたいという方々がいるということ。そうした方々への付き添いなどの支援やネットワークも増えてきています。民間業者、ボランティア、市民活動団体など様々な母体で様々なやり方があります。こうしたサービスはあればあるほど充実してくるので今後も拡大させていければ良いと思います。

(文入氏)

恩田氏の言ったとおりだと思います。地域のイベントを始めたばかりの地区はどのように多くの人に関心を持ってもらうか、多くの人に参加してもらうか、などを柔軟に考えていますが、全くイベントや行事を行っていない町会・自治会もあります。イベント・行事をやっていない町会・自治会の会員から個人的になぜイベント・行事を行わないのかという質問もあります。しかし、外から指示を出すのでは意味がないので、自ら動いていくしかないと思います。そこで、そのようなイベントや行事を始めたいと考えている人たちに実際に動きだしてもらう良いきっかけなどはないでしょうか。

(恩田氏)

馬橋地区は町会・自治会が24ありますが、大きく3つのブロックに分けています。ブロック毎に1～2ヶ月に一回情報交換のために定例会を開いています。それぞれの町会でも交流するため行事やイベントにお互い参加しています。イベントや行事を全く行っていない町会・自治会もありますが、ブロック内でのコミュニケーションでイベントや行事の運営法などを耳にしてイベントや行事を始める町会もあります。なので、町会・自治会長・市政協力委員に地区

長が働きかけていくことが大事だと思います。

(文入氏)

そのとおりですが、町会・自治会長さんがいい例だと思います。1町会だけで声をあげたり、会員さんが他の町会に訴えかけても、立場的に厳しいので町会・自治会長が現在の地区長さんに働きかけてもらうしかないと思います。

(恩田氏)

町会単位やそれよりも大きくした範囲が地区ですが、小金地区は小金宿祭りをはじめ大きなイベントを行っているように地区のまとまりがあるのだと思います。

(大塚氏)

松戸市市政協力委員連合会会長として全12地区回ってみて考えた結果、問題点としてまず福祉問題、子育てや教育問題、地区の文化や資産を活かした文化の問題、この大きく分けて3つの枠組みのなかで問題に対してどのように取り組んでいくのか。都市の集中化というように、市の施設を一ヶ所にまとめることで利便性を高めていくことが社会福祉の分野では必要になってくると思います。

教育の面で言えば、今の子供たちは自分たちが住むまちについての生い立ちや地域の資産などを知らない。そこで、将来地域を担っていく若い親世代にも自分たちの住む地域についてもっと知ってもらいその子供たちにも伝えてもらわなければならないが、十分ではない。また12地区を回ってみて地区によっては温度差があることがわかった。

しかし、12地区でも共通にできることがあり、例えば、福祉や教育の問題は市としての方向性をまとめることができると思います。しかし、地域の環境づくりは地域ごとに差があり、共通事項として取り組むことはできないと思う。よって3つの枠組みで議論すれば良いと思う。

今の行政に言いたいことは、今年度に機構改革がありその弊害が出て来ている。縦割り行政によって、横の連携が取れていないのでいいアイデアも共有することができていない。松戸市を変えていく為には、この場で提言していかなくてはいけないと思う。総論的な話ばかりではなく、各論的な話を行わないと解決策も見えてこないのではないかと思います。

(座長)

いくつかポイントが出ました。ひとつは地域によって担い手の成熟度や盛り上がり異なる。もうひとつは福祉・子育て・環境・文化の部分においてそれぞれの地域で特徴があり、個別で議論したほうが深まっていくのではないかとのことでした。

(荒氏)

少し角度を変えてお話したいと思います。子育て支援を行っていますので若い人たちと触れ合って若い人たちにもっと地域に出てほしいと考えています。

前は野菊野団地でのイベントを通じて若い人たちが地域のためになにができるか考えるき

っかけになったという話をさせてもらいました。午前中にゆうまつどで「ゆうまつどフェスタ」があり、子育て中の若いお母さんが主体の「ママ祭り」を行いました。これは過去にお母さん方から自分のスキルを活かす方法はないかとの相談を受け、自分の持つスキルを祭りで活かしてもらおう場として行ないました。子育てを終えた後には資格を取ったり、サークルを運営している人が地域にいます。こうした人たちの他にも、なにを地域で活かせばいいのかわからないと悩んでいる人がいます。地域に参加したいけれども新しい形で参加したいと考えている人たちのためにもいい方法を考えていきたいと思っています。

(座 長)

先ほども言いましたように地域に参加したいと考えていても入り口が見つからないことや、新しいことをやってみたいと考えていてもなかなか口に出すことができない環境が地域によってはあると思います。なんでも思ったことを口に出せるような環境を作っていくことも必要だと思います。

(原田氏)

地域あるいは町会は路地から路地というように決められているが、区割りとなると学校や市政協力委員のものなどそれぞれが異なっています。地域における最大の関心事は神社の祭礼だと思います。

ふれあい会食会や子育てサロンも縦割りの組織的なものであると思います。地域でなにか始めようと思ったときにその区割りが障害になっている事が多く、区割りを統一した仕組みにしないと地域の発展は望めないと思います。

(座 長)

既存の区割りではある程度うまくいくが、それを越えての活動となると妨げになってしまうことがある。それは機能を意識しての組織構成であったり、区分けであったりするためです。神社の祭礼などは機能と言うよりも土地の繋がりであり歴史や伝統であり、機能とはまた別の側面で共有したり結束したりできるとよいのではないか。

(原田氏)

これから地域を背負っていく子供たちに社会福祉という考えを持ってもらうために地区割りという概念を無くしていくべきだと考えています。具体策として近隣の学校のブラスバンドや鼓笛隊を集めて音楽祭を行います。線引きに拘らずできることをやっていかなければならないと思います。今後は子供たちにも地域に関心をもってもらうような方法を考えていかなければなりません。防災問題など今すぐ取り掛かるのは難しいですが、住む地域は同じなのに避難所が異なるといった状況などを解決していくことが必要だと思います。

(長江氏)

松戸市は合併を繰り返して大きくなった市なので、歴史や地域の基礎的な資産などが地域で

異なります。それぞれの地域の活性化や近隣の地域との連携は今後も重要な問題になってきます。それに加えて地元に住んでいないが地域に参加している人もいます。

市内には千葉大学・聖徳大学・日本大学・流通経済大学があり、面で捉えて交流しなければならないところには「センターオブコミュニティ」の考え方が重要です。これは、大学というものは地域に必要とされる大学であるべきという考え方で文部科学省も推薦しています。幼児教育や小中高等学校教育も重要なのですが、それに加えて大学の部分でも松戸市は資産を有しているので、地域の再生や街づくりに活用しない手はないと思います。

また先ほど原田氏も言っていましたが、お祭りをやりたいが、寄付金を持ってくる人たちの割合が減っています。商業や工業が衰退して魅力的なお祭りを開催できていないのも一因です。資金を寄付してくれる団体も商工会などが中心になっているので、これを団地や商店街などの団体とも連携・協力していかなければならないと思います。

大学はそれぞれに強みを持っていて聖徳大学であれば、「たまごプロジェクト」という学生が小学校で授業をさせてもらえるトレーニングを兼ねた触れ合い体験をさせてもらっています。このように地域とコミュニケーションを取れる新しい方法に大学も含めて考えていただけるとありがたいです。

(座 長)

大学や民間企業なども地域のためになにかをしたいと考えているのは確かですが、連携がうまく取れていない現状です。大学も学生を地域に送り込みたいと考えてはいるものの、どのように送りこめばよいのか、大学としても曖昧な部分が多いということです。

(長江氏)

社会福祉協議会や、町会など窓口となる機関ともっと直接的に結びつきができれば、学生などもっと地域に参加しやすくなると思います。

子育て関係はイベントなどで人的支援をさせてもらっていますが、単発ではなく継続的に行えたらいいと思います。

(文入氏)

たとえば、社協で考えてみますと各地区でふれあい広場は開催していますが、そこでは子供たちがボランティアとして関わっています。ふれあい広場には高校生も参加していますし、東部地区では大学生も参加しています。このように少しずつ全地区社協に広げていくにはどうすればよいか考えていきたいです。一部の地域ではボランティアの活動が根付いています。そこでふれあい広場だけでなく、イベントや授業などに学校ごとに参加するとういうことを目指していきたいと思います。

また、防災では学生たちは大きな力をもっています。地域の学生と連携して防災に携わろうと考えています。報告書の中のP. 11の図を見ると地域の誰もが入っています。商工団体も入っています。これをフランクに捉えて皆が積極的に参加してほしいです。ただ、荒氏が言っていたように自分たちの持つスキルをどのように地域に活かしていくかがわからないという問題

を解決するのが難しいのです。私の地区の話になりますが、イベントで模擬店を出店した時若い方が当番になったのですが、その時うまく店をまわしていたスキルを今後も活かそうと思ってもその時限りで終わってしまいました。課題はたくさんあってどのように解決していくかを考えていかなければならないと思います。

(座長)

分野やイベントでは子供たちや学生が参加できていますが、なかなか恒常的に続けていくことができないのが現状であります。今後の担い手作りも含めてそのような場を作っていくことが課題です。P. 11の図もどこが、どのように関わるかなど様々なパターンがありえます。町会・自治会、社協がリーダーシップを発揮するというケースもあれば、学生が中心となってコーディネーター役となるケースもあります。様々な人たちが積極的に関わり合える場を作ることと、線引きに拘り過ぎず柔軟に又は公益的に考えていくことが必要になると思います。

(島尻氏)

皆様の話を聞いてとても参考になりました。きっかけ作りをどのように作っていくことができるのかなと考えると、それぞれの組織・団体が主体的になって考えていくしかないと思います。

昔教員だった頃のことを思い出しました。ひとつは三世代交流会です。今でも続いている三世代交流会ですが、学校だけで行っていたならば現在まで続いていなかったと思います。学校の周りであった組織・団体とうまく連携をとることができたから、今でも続いているのだと思います。その連携の中心的役割を担ってくれたのが、町会連合会でした。それぞれの町会にいるスキルを持った人たちと子供たちをどのように交流させてあげるかを考えてくれました。民生委員や児童委員も大きな役割を担ってくれました。その連携が大きかったと思います。中学生が自分の身内以外の地域の大人と顔見知りになり、その後地域のイベントに積極的に参加するきっかけになりました。横の繋がりというものは非常に重要でこれがなければ、発展もなかったと思います。

また、在職中は常に授業参観を行い、開かれた授業を目指していました。参観日を設定するのではなく、いつでも誰でも参観できる制度でした。参観に来られる方は地域で活動している方が多く、地域の歴史や文化に詳しい方や世代を超えた取り組みをされている方などで、授業が終わった後には情報・意見交換会を開いて話をしてくれました。それをきっかけにして総合学習の時間に生徒がその方のお宅に出向きお話を聞き、文化祭で発表することができました。ただ発表するだけでなく、講師としてその方を招きまたお話をさせていただきました。結果として地域の盆踊りなど催し物に生徒が積極的に参加するようになり、町会長には喜ばれました。

もう一点、敬老の日に地域の高齢の方のお祝いを地域を挙げて行った地域もあれば、お祝いの品を渡すだけで、お祝いのイベントを開かなかったという地域もあります。結論を言えば、日頃から町会の中で積極的に世代を越えた交流を精力的に、意図的に、計画的に行ってほしいということです。そして担い手をどのように育てていくか、これは様々な組織と連携して行うしかないと思います。その最たるものが行政であり、松戸市にはそれらの手立てがあると思う

ので援助を行ってほしいと考えています。

(座 長)

三世代交流や開かれた学校というのはまさに地域の中の学校という視点である。学校という
と教育の場としての学校と地域の拠点として分けられてしまうことがある。行政の縦割りとい
うように従来の学校は教育の場としての側面が強く、地域の方々が踏み込むところではないと
いう固定観念がありました。しかし、現在では地域の中の学校の側面が強くなってきて、地域
の方々に子供たちを支えてもらう部分をどれだけ増やしていけるかが焦点となっています。そ
の後どのように連携を行うかの方法が課題です。また担い手をどのように育てていくのかこの
辺も課題となります。

(吉岡氏)

特養の代表として来ていますので要介護状態にある高齢者の現状についてお話したいと思
います。市内に特養は18施設あり、応募されている方は1,600人程度います。重複して応
募している方もいますので一施設あたりで言いますと18で割った数よりは多いですが、少な
いところでも50人、多いところでは500~600人の方が応募しています。私の施設でも
250~300人の方が申し込みをして入所を待っている状況です。対象者にあたるのは亡く
なられている方や長期入院が必要な方や医療的依存度が高い方です。これらの対象者は年間1
0人程度で、その枠に300人が応募しているので一番優先度が低い人では入るのが30年後
になってしまうのが現在の状況です。症状が比較的軽度の方でも何かあったらという保険で応
募されている方もいます。しかし、平成27年度の7月から制度の変更により要介護度の低い
方は特養の申し込みができなくなります。今までは認知症を患っていたり、火の取り扱いが上
手くできないといった方は要介護度が低くても緊急性が高いとの判断から特養に入所できて
いましたが、今後は申し込みすらできない状況になってしまいます。このような方々を救うセー
フティネットのような仕組みづくりを地域で考えていかなければならないと思います。独居で
認知症で危険性の高い方の独居高齢者マップみたいなものを作成して組織的に定期的に訪問を
して孤独死や犯罪に巻き込まれる危険性を軽減しようと考えていました。一部の地域ではその
ような取り組みを行っていますが、ここで注意しているのが個人情報の問題で強制的に個人情
報を提出させている訳ではないのでサービスから漏れてしまう人が出ないように注意は払って
います。

(座 長)

要介護度の低い方が外されていくという流れのなかで、認知症の方への対応は活発になって
きていますが、認知症の方への対応が充実しているところとそうでないところの差がでてきて
いる。認知症の方を支える手段をどうするか、これは緊急性の高い課題だと思います。さきほ
ど大塚氏も仰っていましたが、福祉の部分と教育の部分は分けて考えなければいけないと思
います。最後になりましたが、星さんお願いします。

(星 氏)

連携について話をさせて頂きたいと思います。単発や限られた場所についてはすごく活発に行われていて、ある高校では、幼稚園に直接お願いして実習に行ったり、小学校に読み聞かせに行くなど非常に積極的に参加し、また、そこから高校のサークルで街の清掃活動を行うなどに発展している。しかし、それは個人個人の繋がりであって仕組みには繋がっていないと思います。仕組みというのは地域差が大きく、制度をどこまで作れば活発な地域の活動に繋がるのか考えていかなければならないと思います。公民館の防災や高齢者への取り組みというのは仕組みのなかに関わってくるのか併せて考えていきたいと思います。

(座 長)

この後の話にも関わってくるとは思いますが、防災一つにしてもいくつもの取り組みや活動があるのですが、上手く連携してこない例はたくさんある。行政にしても公民館の所管と防災の所管が異なるので地域でもどのようにまとめればいいのか曖昧で、大塚氏が仰っていた論点でもある、横の繋がりを地区ごとに考えたときに仕組みが整えばうまく繋がるのか、別の工夫が必要になってくるのか議論を深めていければと思います。

一通り皆様にお話頂きましたのである程度テーマを絞りまして踏み込んだ意見をいただければと思います。先ほど大塚氏が仰っていたように主に高齢者の福祉関係、教育関係。原田氏が仰っていたお祭りなどの文化的関係、環境保全関係など分けながら意見をいただきたいです。

ただ、念頭においてほしいのはこの懇談会は地域のしくみづくりがテーマであって、地域の皆様の立場が違うので地域差があるとは思いますが、地域の仕組みづくりを通じてどこまで克服できるのか。また行政と地区との関係で行政の所管が分かれている中で地域との連携がうまくいっていないということを前提において話し合っていたきたいと思います。

(大塚氏)

さきほどからお話にあがっていたことの7割ほどは小金地区で14年かけてすでに行っています。気が付いているのは中学生をどのように地域に参加させるかということです。先ほど原田氏が仰っていたお祭りにしても古くから住んでいる方がなかなか新しい人たちを受け入れないところがあり、非常に温度差を感じ苦労している。しかし、現在の中学生は積極的に地域に参加してくれています。これをきっかけに中学生の親御さんも地域づくりに参加してくればよいと考えています。

小金は北に位置していて流山市との市境にあり、坂川と富士川があります。川の自然を守ろうということで遊歩道を作ったり、周辺の放棄された田畑を健康な高齢者のために解放して働き口を作ればよいと思っています。また千葉大学柏の葉キャンパスの先生や地域の学校の先生を含めて小金の環境を守っていこうと活動しています。新松戸の流通経済大学や東洋学園大学の学生もこのような活動に積極的に参加しています。最終的にどのような仕組みを作れるか今は勉強しているところですが、来年までにはできると思います。いかに多くの人に関心を持ってもらって、街づくりに参加してもらえかが非常に重要になっています。ボランティアの数

も年々減ってきているので、諸団体と協力してより大きな動きにしていければと考えています。

(原田氏)

本庁地区24の町会を預かっていますが、2、3の町会・自治会は駅前の商業地域です。残りの町会・自治会は住宅地域です。住宅地域には子供たちが多くいてこども会もあります。しかし、駅前の町会は昼と夜で人口が異なります。

また、町会の役員の成り手が少なく、新規住民も町会に加入してくれなくて困っています。

(座長)

あまり協力的でない新規住民にはどのような対応をしていますか。

(大塚氏)

子供たちを中心に街づくりに興味を持たせてイベントなどを開き、親にもイベントに参加してもらうことで街づくりに繋げています。だんだん小学校・幼稚園にも広がっていき、小金地区では12年間市民運動会を開催していなかったが、今年は老若男女全ての地区の方をターゲットにして企画したところ、1,200人近くが集まる運動会を開催することができました。開催したなかで問題点もわかったので来年以降で改善していきたいと考えています。

また、町会の役員はなかなか成り手がいません。私達は長年この土地に住んでいますので恩返しをしなければと思い役員を務めてきましたが、それだけでは次の世代に繋がらないので今は幼稚園児の親と秋刀魚の会などを開催しています。そこで街づくりとして行っていることを宣伝して、参加を呼びかけています。

(座長)

福祉の問題でも子育てや教育と連動して考えないと地域は動いていかないということです。福祉は福祉、子育て教育は子育て教育と別々に考えてしまいがちですが、地域はそこを繋げてこそ地域の活力が生まれると思っています。その媒介が組織的にどのようにあればよいのかと、運動会などのイベントを通して発展させていくのも一つのやり方だと思います。

(原田氏)

駅前の商業地域を預かっていると開発問題が話題になっています。5年、10年先の計画だと思っていましたが、50年、60年先を構想したマスタープランを作成しているということでした。開発問題も地域によって異なるとは思いますが、駅前の商業地域において開発問題は重要なテーマになっています。

(恩田氏)

学校や地域との繋がりとして社協でもふれあい広場を開催しているのですが、中学校区の一区ではボランティアに積極的に参加してくれています。県立高校でも日頃から町会との繋がりを重視してくれていて高校の文化祭や体育祭に地域の方を招待してくれます。春と秋のクリー

ンデイでは学校の生徒、父兄、先生方にも参加してもらい合同で行っています。中学校においては地域の大きなイベントには学校に要請して多くの参加者を集めることができますのですが、中学生の属している個々の町会のイベントに関してはなかなか参加してもらえない状況です。今後は町会のイベントにも参加してくれるように繋がりを持たないといけないと思います。

以前は年に一度は学校と市政協力委員との懇談会があったのですが、しばらく開催されていませんでした。来月の防災で市政協力委員を交えて懇談会が行われることになったのですが、学校と地域の繋がりに関して学校側は地域あつての学校だと言います。今後は回を重ねるごとにこの考えも変わっていくのか期待しています。

小学校1～6年生までは子ども会のイベントや町会のイベントにも参加してくれますが、卒業してしまうとなかなか繋がりが取れないので、改善していきたいと考えています。

(座 長)

学校としては松戸市内の学校は全体である方針に従って、地域と関わっていかなければならないのか、それとも学校単位で学校長にある程度の裁量で、懇談会を開催、子供たちがイベントに参加できるように交流を取っていくことができるのかを島尻氏にお伺いしたいです。

(島尻氏)

それは催し物によって異なります。松戸市全体で取り組むようなものにつきましては校長会で調整を図ります。しかし、校長会だけでは動けない部分もあります。例えば、吹奏部や合唱部など公共交通機関を使って移動しなければならない場合に、事故に遭うことを想定できるので教育委員会と連絡を取り、了承を取る必要があります。また、担当行政部とも連絡を取らなければならないので、行政経営課などに財政的負担をしていただきます。

それとは別により狭い範囲で行う場合には交通機関を使わないので教育委員会の了承を必要としません。その場合は職員会議にかけて、職員に協力してもらいます。

結論としては積極的に呼びかけてくれれば、それに応えるということです。そのようなイベントに参加することを子供たちは楽しみにしている。学校としても呼びかけがあれば応えるスタンスはあります。

(座 長)

地域の仕組みがある程度想定された時でも、懇談から始まりある地域で子供たちを交流するイベントを開こうとした時に提案がどんどん出てくれば学校としては様々な可能性が出てくるということですか。

(島尻氏)

私は常盤平地区に住んでいて近くには常盤平中学があります。敬老の日に町会のほうから中学生に合唱や遊戯などを提供してほしいとお願いをしたところ、参加してくれたという話を聞きました。

(文入氏)

私の家の近くの小学校は非常に開かれていて児童もボランティアなどに積極的に参加しています。授業参観も子供や孫が学校に通っていない地域の人も参加しています。そのような学校と市政協力委員との懇談を働きかけることは非常に重要であると思います。教育委員会を通しての要請では、なかなかイベントも実現することが難しいからです。例えば、私は農業応援団として学校給食に松戸の農産物を積極的に使っていこうという取り組みをしていて教育委員会に要望書を提出していますが、なかなか実現できません。

また環境学習を行うためにいろんな学校を訪れますが、取り組みなどそれぞれ違います。地域の方々や組織の方々がそれぞれ積極的に学校に働きかけていくことで松戸市全体の学校に広まっていきもっと開かれた学校になると思います。

(島尻氏)

開かれた学校ということですが、学校のほうでその気持ちがありましてもきっかけがなくて動けずにいます。そのきっかけとは地域の方が学校に入ってきて催し物に招待してくれると非常に参加しやすいです。イベントを通じて子供は地域の方々と顔見知りになります。顔見知りになることが大事であり、道で出会った時に挨拶や会話を交わすようになります。学校としては開かれた学校づくりをしなければならぬと思いつつも、そのきっかけ作りに悩んでいて地域の方々が積極的に働きかけてくれると変わっていくことができるということを知っていただきたいのです。

(座長)

働きかけも町会・自治会や社協を通じての方法もありますし、近年のモデルケースとしては円卓会議があります。これは地域に円卓会議を設けて町会・自治会の立場、社協の立場、学校の立場でそれぞれ望んでいること、できることなど話し合っ風通しを良くするというイメージです。地区ごとにそれぞれが抱える問題、やりたいこと、困っていることを共有することができる円卓会議のような場がないと前に進むことができないと思います。教育の話が出ているので荒氏いかがですか。

(荒氏)

教育ということではないのですが、私が気になっているのは子供の遊び場です。子育て世代の親に地域と関わってもらうには子供の遊びが重要なのではないかと考えています。子供を外で遊ばせるとうるさいという苦情が来ってしまうといったことや、子育て世代自体が外で遊んだ経験がないため、子供をどのように外で遊ばせたらいいかわからないということがあります。公園遊びのイベントに参加して公園デビューをしたり、水遊びをするために松戸市から船橋市のアンデルセン公園に出向いたりというのが現状です。地域の中で声をかけて顔見知りになり、イベントに参加することを通して交流を深めることが子供を外で遊ばせていても苦情を言われない関係づくりに繋がると思います。公園での遊び方を子育ての先輩である地域の方から教えてあげることで子育て世代の親とも交流が取れて地域に参加してくれるようになると思います。

イベントも大事ですが、日常の遊びも地域の交流に大事だということを理解していただけたら嬉しいです。

(大塚氏)

学校関連ということで6年前から取り組んでいることがあります。小金小学校の校長先生を中心として四季の会というものを年に4回開催しています。参加者は小金小に関わった人達20人ほどで教育委員長も出席しています。教育委員会内の情報を共有し、小金で何をやりたかなどを話し合っています。先生方の意見を聞きながら小金の魅力を引き出すにはどうすればよいか考えています。その中でテーマに上がるのは先ほども述べたように地域から学校に呼びかけてほしいということです。これは保護者会でも要望が出ます。このような懇談会を設けて先生方から学校としてやりたいことを聞き出し、地域に落とし込むことは非常に有意義で、小金に限らず松戸市全体でも取り組んでいくべきではないかと思います。

(座長)

行政との関係についてのご意見は後ほど集中的にいただきますが、学校を含めた教育関係の風通しを良くする、問題を持ち寄れるような場をもうけていくことが必要になってくるのではないかと思います。そのことについて星さんはどうですか。

(星氏)

以前からも思っていました。今回お話を聞いてそのような場が必要だとますます強く思いました。学校に働きかけといっても、校長先生の裁量や感覚によって地域の捉え方が異なります。今まであった懇談会が無くなり、逆に積極的にボランティアを活用してくれる学校もあります。

P T A連絡協議会では地区ごとにやっていますが、P T Aのある学校でもない学校でも保護者会の上の人や、先生、民生委員と定期的に会を持っているところがほとんどです。しかし、本庁地区の私のいた学校ではそのような会が無く、校長先生に直談判しても難しいということで片付けられてしまいました。働きかけを周りからもっとしなければならぬのですが、周りの人はそのような状況や市内の他の学校がどういうことをしているのか知らない。情報を共有する場がなかったので、それができていればと思いました。

(座長)

ありがちな話ですが、できるという暗黙の前提があるからこそ人は集まってくるので、できないとなると人も集まらずに議論にもなりません。できるかできないかわからないけれども、ひとまず集まって議論できる環境があるだけでも違います。今検討されている仕組みも、できるかどうかかわからないけれども問題を共有しようという流れを作り出せるかが課題となります。

時間の関係もありますので、福祉関係のことも意見をいただきたいと思います。さきほど吉岡氏が仰っていた要介護の方が1,600人近く登録している中で、施設を巡る環境も危うくなっています。高齢者支援、具体的にいうと一人暮らしをしている高齢者への配食サービスや見守りサービスは市民活動レベルでも活発に行われていたり、交流の場も社協主催の下行われ

ていますが、実際現場にいらっしゃる中どうご覧になっていますか。

(吉岡氏)

今は施設から在宅へという流れになっていまして、住み慣れた環境でできる限りの介護を行っていかうということです。今制度としてあるのが24時間体制で看護師や介護士が自宅を回り、緊急時にはすぐに駆けつけられる体制を取っていますが、参入する業者の数が少ないです。また、危険な状況だと本人が訴えることができる場合は良いのですが、自ら訴えることのできない認知症の方などがそのまま暮らしているということが問題です。認知症の方で独居で近くに身寄りがない人には地域の中でのフォローが必要で、在宅で限界までという場合には別のサポートやフォローが必要になると思います。

(座長)

福祉でも医療でも在宅で可能な限り当事者の希望に即すというのが大きな流れとしてあります。ただ、在宅という形になると置かれた状況や望まれていることが大きく異なるので、支援の輪をどのように広げていけばよいかという問題があります。福祉の分野に民間が参入してきていますが、事業として成り立つかと言われるとまだまだ厳しいので参入する業者が増えていかない実情がある。また、認知症の方の場合だと介護の分野だけでは対応できないことがあるので、多層的な支援が必要であると言われていた中で地域での支え合いをどうするのか難しい現状ではありますが、文入さんはどうお考えですか。

(文入氏)

難しい問題です。民生委員の会合でも言われていて、私自身も地区での経験がありますが、独居老人の方で自分から情報を発信することはなく、なにかあったら連絡するので今はほっといてくださいという方が少なくないです。その場合、生活保護を受けて行政との繋がりがある人はいいですが、そうではない方は困った時にどのようにして町会・自治会に連絡を取るか、また見守り側もどのような体制を取ればよいか考えなくてはなりません。

また町会・自治会が抱える問題としては町会費を払わない人たちへの対応があります。生活保護を受けながらも町会費を払ってくれる方もいますが、その他の生活保護のほとんどの方が町会費を払ってくれません。町会・自治会として対応しようとしたときにも町会費・自治会費を払っている方が対象になっていますので民生委員としましてはそのような方々をどう組み込んでいくかが課題となります。民生委員としましては、見守り体制はできていますし、防災などに即して手当て、民生委員協議会の中でグループ分けをしてなにかあった時に情報を共有しようという取り組みは書面上はできていますが実際にはどのようにすればよいか考えている。課題はたくさんある中でいろいろと取り組んでいますが、確立した1番良いシステムというのはまだありません。

(座長)

導入すればすぐ解決するような仕組みはないのでそこをどうするか。地域の仕組みづくりと

いう点から見て、地域にどのような支援や支えがあればよいと思いますか。吉岡さんにお伺いしたいです。

(吉岡氏)

今年度から始まることなのでどうなるかわかりませんが、防犯目的で街灯にネットワークカメラを市内に1,000台設置して犯罪を未然に防ごうという取り組みです。それと同時に高齢者の方で徘徊してしまう方を家族の方からの依頼で捜索する際に役に立つということで楽しみにしています。この防犯カメラの良いところは道を映すように設置しているので、道を通る人たちを映すことができ、重要な箇所だけに設置すれば数も多くはなりません。また設置者も録画している映像を見ることはできず、犯罪や行方不明の方が出た時にだけ警察の人が見ることができる仕組みになっていて、期待しています。

(恩田氏)

今お話にあった防犯カメラですが、月々の維持管理費などの負担もありますが、犯罪抑止効果もかなりあります。

うちの地区の高齢者災害時医療援護者支援体制のなかで災害が発生した時に地域の高齢者の方を避難場所まで誘導しようという松戸市の中でモデル地区になっています。各町会で65歳以上の一人暮らしの方をリストアップしています。その上で町会には班や組の対象者の方を把握してもらい、いざという時に協力し合って避難場所まで誘導、避難してほしいと思っています。町会内での組織づくりや世帯構成の調査を行い町会役員と協力して進めているところです。

(座長)

いざという時にどう動くかということが課題で、このように動く決められているがいざという時に動けないケースがまだまだ多いので、防災や避難を日常化していくことが重要です。こないだの台風の時に避難勧告がでた自治体がありました。しかし、そのなかで実際に避難した人は一割だけでした。そのような状況の中で本当に避難が必要になった時に動けるかは避難の日常化が地域における課題であると思います。

最後に地域と行政との関係について日頃の活動で課題を抱えているか、行政との連携がもっとうまく取れるのかご意見をいただきたいです。このような地域の仕組みづくりで新しい取り組みをしている事例ですと、香取市があげられます。

香取市では小学校単位の横の繋がりを作る住民自治組織づくり、あくまで住民の自主的な合意の下に作るという制度を実施しています。この組織は23区あるなか17区で作られています。このような組織を作る背景には合併による弊害が大きかったことがあります。これまでは地域密着型で、住民と行政が一緒になって運動会やイベントを開催していましたが、合併したことにより行政が遠くなってしまいました。そこで行政との関係を再構築しようということを含めて制度設計しました。最初は反対の声が多かったですが、単独の組織では限界があるのでお互いに補完しあっていくことが目的でした。町会単位でできないことは学区単位という大きな枠組みで取り組んでいました。

また別の取り組みとして合併前の4地区に地域支援センターを作って部長級を配置しました。そこで地域の自治組織で出た意見を集約して役所に繋げる役割や、地域づくりに関してある程度の知識や技術が求められるのでセンターの職員を通して地域に伝えていくという役割を担っています。行政との間でも風通しを良くしていこうということで支援センターが開設されました。さらに地区担当職員制度を作り職員の募集をかけたところ130人近くの希望者が集まりました。1学区に5～6人の担当者を配置して兼務で行っています。組織全体で制度化して、担当者には昇給ポイントを付与しました。そのことにより職員の意識を変化させました。実際に地域の会合から出てくる意見は分野ごとの問題ではなく、例えば子育てと高齢者福祉を融合させたような問題です。そのような問題は関係各課に連絡して連携を取ります。これは松戸市に限らず他の自治体でも課題となっています。なかなか市の内部から分野を越えた連携を作る動きは難しいですが、地域からでてきたことへの市としての対応は支援という枠組みで行うのか、従来の事業で行うのかは工夫が必要になります。

地区と行政の関係についてどのように考えていくのかご意見を聞かせてもらいたいです。

(文入氏)

行政にいろいろと求めがちになりますが、松戸市内でも多くの職員さんがボランティアに参加しています。施設の祭りなどを手伝っている職員さんもいますので、全体を見ればごくわずかかも知れませんが、希望はあると思います。市民との関係も不満のほうが強くなりますが、他市の市民の話を知ると松戸市の協働の意識は高く、基礎はできていると思います。

(座長)

従来までの地域と行政の関わりは「要求型」で市への要求が通らないと市への行政批判に繋がるといったパターンが繰り返されてきました。しかし、近年の流れは話し合いの場が出たお互いの意見の中でできることは協力して行っていこうというものです。そこで職員の方に言いたいのはもっと地域に出ていくような仕組みにしないと両者の意思疎通は難しいのではないかとということです。

(恩田氏)

うちの地区は24町会・自治会がありますが、支所長と私同伴で何らかの形でお会いしているのですが、その時に会長から支所長への意見をいろいろ聞いていますが、こちらから出向いて交流するというのも大事だなと思いました。

(座長)

さきほど星氏も言っていましたが、防災一つ取ってもいろんなところで議論されています。地域からすると議論されていることが実際にどのような動きに繋がっているかがわからないので目に見える形にできると良いのかと思います。

(星 氏)

防災で思い出したのですが、市民全員分の非常用の食料が防災センターや市で確保されていると信じて疑わない市民の方がいるそうで、そのような無茶な要求を行政にする人もいてその要求が通らないと行政批判をするのだらうと思います。そのあたりを意思疎通や風通しをよくしていくしかないのかなと思います。

一度行政の方と一緒に街を回る機会があったのですが、市の職員とわかるといろいろと要求をされる市民の方が多かったので、一方通行でない広く多角的に情報を共有できるようになればよいと思いました。

(座 長)

先ほどは市民相互で情報が共有できないので改善が必要ということでしたが、これは地域と行政の間でも同じ課題があるということです。この仕組みのもう一つの狙いは地域自治ということで、地域の中で自分たちにできることは自分たちでやり、行政は行政で最低限カバーしなければならないことはフォローする。この公と私の境界線が流動していると言われています。だからこそ難しい部分もあり、協働で連携が取れている部分もあります。防災時の水の確保で、全てを行政に任せるのは難しいので、より小さい範囲で確保にあたり、難しい場合には民間企業にも提供してもらうなどの取り組みが必要になってきます。

地域でできることは地域でやっていくという裾野をどれだけ広げられるかが課題になってくると思います。できるかどうかは非常に難しく、地域による熟度の違いや連携の度合いによって変わってきます。積極的なところは自分たちでやるが、そうでないところは行政依存で終わってしまう。そのような格差に対してどう対応していくのか課題も残ります。

(大塚氏)

先ほどから行政に対して厳しい話をしていますが、松戸市に考えていただきたいのは社会福祉関係の取り組み方の中に無駄が多いことです。一般会計の中に民生費が45%ありますが、中身が正しく使われているのか今一度検証する必要があります。

一番思うことは、地域から行政にお願いするのではなく提案をしていかなければならないということです。事前に調べて提案しないと行政にお願いしてもなかなか動いてくれない。商店街の活性化について最も関心を持っています。駅前もそうですが、大型店舗が外に出て行ってしまい商店街の過疎化が進行して、地域の特色ある商店が廃業しています。地域づくりにおいて駅前の商店街の活性化は最重要項目ですので、市の重点項目として取り組んでいただきたい。我々も先進的な商店街から学び、松戸市でも取り入れることができるものは行政と共有し作り上げていくことが重要だと思います。

(座 長)

駅前の開発や商店街の活性化を地域づくりの中でどのように考えていくのかこれは非常に重要な問題なので次回に事例と共に紹介する形で回させていただきたいと思います。

(原田氏)

私達の地域は松戸の駅前です。駅が改良され、エレベーターやエスカレーターが設置され南側には商業ビルが建設されます。駅舎の入り口と街の入り口とを階段やエレベーター、エスカレーターで繋げるわけですが、地域の満足だけではなく市民が使う駅として長い目で見て、使いやすさと安全性を兼ねた駅作りを考えています。

(座 長)

その辺どういった盛り上げ方があるのか、地域づくりと密接に関係していますのでどういう風に考えていけるか次回考えていきたいと思えます。

あと、先ほど大塚氏が仰っていた行政への提案についてですが、提案しないことには動きが作り出されていかないので、こういった部分では無駄を省けるのではないかと、こういう部分では一緒にやれるのではないかと。いずれにせよお願いすると言うよりは提案する、そうすることでより建設的な話し合いができると思えます。地域で調べることも必要になってきますが、パートナーシップのような関係をつくるのが、課題になっています。そのような関係をこの仕組みづくりを媒介にして作っていただければと思えます。

では本日のところはここまでにしておいてまた残りは次回にということにしましょう。

(向後専門監)

ありがとうございました。多少時間は過ぎてしまいましたが、これを持ちまして第2回地域のしくみづくり検討・検証懇談会を終えたいと思えます。